

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(1 年計画の 1 年目)

1. 研究課題

『文史通義』研究

A Study on " Wenshi tongyi"

2. 研究代表者氏名

古勝隆一

Ryuichi Kogachi

3. 研究期間

2019 年 04 月 - 2020 年 03 月 (1 年度目)

4. 研究目的

章学誠(1738-1801)『文史通義』は、中国文明における文献と史学の意味を根本からとらえ直す偉大な著作であり、文献実証主義的を越えて、さまざまな方法論に基づく読みが可能な文献である。本書の遠大なる構想を解明するため、文献学・史学・文学・思想史など、多角的な面から検討を加える会読を行う。本研究班ではこの『文史通義』内篇に詳細な訳注を加え、本書を十全に読解することを目的とする(外篇については、内容の選定が難しいことと、量的な問題を考慮して、この研究計画では訳注を行わない)。訳注稿は『東方学報』京都に連載する予定である。

Zhang Xuecheng (1738–1801) was an eminent Qing Dynasty historian especially famous for his historical theory expressed in his magnum opus, On Literature and History. The book radically clarifies the meaning of writings and historiography in the Chinese culture from the ancient time to the Qing dynasty, and it should be read more closely and intentionally using various disciplines. To clarify the framework of On Literature and History, we would employ a multifaceted approach and thoroughly translate its Inner part into Japanese with precise annotations. The series of translations will be published in the Tōhō gakuho, Kyoto.

5. 本年度の研究実施状況

本年度は 4 月 16 日に最初の研究班を開催して以来、おおむね 2 ヶ月に 3 回のペースで『文史通義』の会読を実施した。前年度に引き続き、活潑な議論を重ねており、問題が完全に

解決していない部分については、議事録を作成し、後日あらためて検討することができるよう記録を保管してある。あらかじめ担当者を決めて、会の数日前に訳注稿を各班員に配布し、班員が事前に目を通した上で研究班に出席する方法を採用したため、研究班では効率的に議論することができた。本研究班では『文史通義』内篇五巻を訳出することを目的としており、本年度は巻四について訳出を進めた。

6. 研究成果の概要

最終報告書に記載

7. 本年度の研究実施内容

- 2019-04-16 『文史通義』巻四「弁似」訳注 『文史通義』巻四「弁似」訳注 発表者 古勝隆一
- 2019-05-07 『文史通義』巻四「弁似」訳注 『文史通義』巻四「弁似」訳注 発表者 古勝隆一
- 2019-05-21 『文史通義』巻四「説林」訳注 『文史通義』巻四「説林」訳注 発表者 竹元規人
福岡教育大学・非常勤
- 2019-06-18 『文史通義』巻四「説林」訳注 『文史通義』巻四「説林」訳注 発表者 福谷彬
- 2019-07-02 『文史通義』巻四「説林」訳注 『文史通義』巻四「説林」訳注 発表者 陳佑真
文学研究科
- 2019-07-16 『文史通義』巻四「知難」訳注 『文史通義』巻四「知難」訳注 発表者 白須裕之
- 2019-10-15 『文史通義』巻四「天諭」訳注 『文史通義』巻三「天諭」訳注 発表者 臧魯寧 文学
研究科博士課程
- 2019-10-15 『文史通義』巻四「知難」訳注 『文史通義』巻四「知難」訳注 発表者 白須裕之
- 2019-11-05 『文史通義』巻四「釋通」訳注(前半) 『文史通義』巻四「釋通」訳注(前半) 発
表者 渡辺大 文教大学
- 2019-12-03 『文史通義』巻四「横通」訳注 『文史通義』巻四「横通」訳注 発表者 古勝みち
京都造形芸術大学
- 2019-12-17 『文史通義』巻四「繁称」訳注 『文史通義』巻四「繁称」訳注 発表者 山口智弘
国立公文書館

8. 共同研究会に関連した公表実績

なし

9. 研究班員

所内

岩井茂樹、永田知之、藤井律之、白須裕之

学内

宇佐美文理(大学院文学研究科)、道坂昭廣(大学院人間環境学研究科)、陳佑真(大学院文学研究科)、福谷彬(人文科学研究所)、王孫涵之(文学研究科)、臧魯寧(文学研究科)

学外

内山直樹(千葉大学)、竹元規人(福岡教育大学)、渡邊大(文教大学)、重田みち(京都造形芸術大学)、山口智弘(国立公文書館)、白石将人(中山大学)、趙ウニル(京都国立博物館)

10. 共同利用・共同研究の参加状況

なし

11. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

なし

12. 費目の 30%を超える大幅な変更があった場合の変更理由

なし

13. 次年度の研究実施計画

なし

14. 研究成果公表計画および今後の展開等

『文史通義』内篇三譯注(共訳)を、『東方学報』第95冊に掲載予定である。また、2020年4月にスタートする「清代～近代における経学の断絶と連続: 目録学の視角から」(班長: 竹元規人福岡教育大学准教授)においても、引き続き『文史通義』訳注を継続し、内篇五篇の全訳を完成させる予定である。

